



## 喜多堂

## 天満宮菜種御供 初演から二四〇年

いまから二四〇年前の安永六年(一七七七)四月。大坂に構えていた小川吉太郎座において「天満宮菜種御供」が初演されました。初代並木五瓶・中邑阿契・辰岡萬作らの合作で、全九幕。「時平の七笑い」で有名な歌舞伎の名作です。

この菜種御供とはもともと天神様の御命日である旧暦二月二十五日に、京都北野天満宮で執り行われていた神事の事で、この日、御神前にお供えした「大飯・小飯」という山盛りのご飯の上に菜の花を挿した事から、この名があります。記録によれば天仁二年(一一〇九)から始まったとされる神事で、現在は梅花祭という神事と融合し、この神事に奉仕する神職の冠に菜の花の挿頭をつけるなどの形でその名残が残っています。

この天神さまの御命日に菜の花をお供えするようになったのには諸説ありますが、その一つに御命日の旧暦二月二十五日は現在の暦だと三月下旬である事から、その御命日の日を迎えるごとに咲く菜の花の別名である、「菜種」が「宥ね(なだね)」に通じるとして、菜の花が天神さまの荒ぶる御霊をお慰めし、雷神から学問の神さまへと成ったという信仰があり、刺々しい心を円くなだめる花である為ともいわれています。

そうした菜種御供を冠名にするこの演目ですが、この初演の三年前の安永三年には俳人の与謝蕪村が「菜の花や月は東に日は西に」という名句を詠んでいる事からも、二四〇年前の日本、とりわけ京阪地域においては菜の花のブームがあったのかもしれない。

奇しくも今月八日から三十日まで、国立文楽劇場において、同じく天神さまゆかりの「菅原伝授手習鑑」の文楽公演も執り行われます。菜の花の春の風情を感じながら、演劇を楽しんで心を宥める事も、円やかな生き方には大切な事なのかもしれません。

## ウメ輪紋ウイルス防除のお願い

数年前から関西においても徐々に被害地域が広がっているウメ輪紋ウイルス。このウイルスに感染しますと、梅の実がちゃんと結実しなくなる事から、感染が確認されると、その地域のウメは全て伐採しなければならなくなります。昨年は東大阪市の枚岡梅林で感染が確認され、梅林の全ての梅の木が根っこから伐採されてしまいました。

天神さまをお祀りする神社では、御神木として梅の木が植えられている事が多く、当宮も梅田の名の由来にもなったという梅の木の後裔木があり、大変憂慮しております。

このウイルスは主にアブラムシによって拡散します。ですので、暖かくなってきたこの時期のアブラムシの防除が最も重要になります。梅の木をお持ちの方は市販の防除薬などで、どうか防除活動にご協力下さいませようお願い申し上げます。

## 災害義捐金等ご報告

平成二十八年七月から今年三月まで当宮御旅社の社頭で募っておりました、東日本大震災、並びに熊本地震に対する義捐金ですが、皆さまのお陰をもちまして、一一二、一三六円の義捐金が集まり、これまでもお送りさせて頂いています。当宮ともご縁があり、また被災地で特に被害の大きかった、岩手県大船渡市綾里地区の天照御祖神社さま、宮城県石巻市の羽黒山鳥屋神社さま、宮城県亘理郡亘理町の川口神社さま、熊本県の各神社(阿蘇神社、豊福阿蘇神社さま等)にご送金させて頂きました。またその他災害に対する御見舞金としてご寄付頂いた分につきましても、ご寄付頂きました方のお名前を日本赤十字社の活動資金としてご送金させて頂きました事、併せてご報告させて頂きます。

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、  
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

